

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690900440		
法人名	社会福祉法人京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)		
所在地	京都府京都市伏見区常盤町40番3		
自己評価作成日	平成31年2月19日	評価結果市町村受理日	平成31年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域住民も参加可能な行事の企画等を通じて地域との繋がりに力を入れている。グループに病院があり医療面でも家族や本人が安心して過ごせるように支援している。日中、看護師が常駐しており夜間のオンコール体制をとっており利用者、職員共に安心して過ごせている。職場環境においても、研修の充実、面談の実施、労働時間等、働き甲斐のある職場作りに努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

京都指月の郷は、伏見の御香宮に近い国道24号線沿いの東側、団地に囲まれた静かな場所にあります。平成30年3月に開設され、West館(地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム2ユニット)East館(グループホーム3ユニット、小規模多機能居宅介護事業所)が協働して運営されています。医務課を設置し看護師が常勤しており、緊急時の迅速な対応は入居者や家族の大きい安心となっています。直営厨房の管理栄養士による入居者の栄養管理と体調や身体状況に合わせた食事形態への迅速な対応が行われています。West館1階の地域交流スペースは、認知症カフェや団地の自治会の集会などに開放し地域交流を図っています。開設初の秋祭りは、入居者や家族、地域住民など総勢200人程で大変賑わっています。地域が事業所を受け入れ、事業所が地域とのつながりを大切にされている証であると思われます。運営推進会議には、多くの家族が出席して活発に意見を述べています。利用者様を知り、一人ひとりの関わりを大切に…のユニット目標を実行され、入居者は穏やかな表情でゆっくりと過ごされていました。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に法人理念、ユニットにユニット目標を掲示し共有を行っている。	法人の理念に沿って風月ユニットは、『1、「利用者様」を知ること。2、一人一人の関わりあいを大切に。3、自然体で家族のような関わりあいを持つ。』と職員が話し合って目標を作成し共有している。目標は、6か月ごとに振り返り評価を行って実践につないでいる。	職員が話し合って定めたユニット目標を共有して振り返りながら実践につなげている。しかし、事業所独自の理念が作成されていない。地域密着型事業所の意義を踏まえた地域に向けて広報ができる理念を法人の理念に沿って作成されるよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りなどイベントを開催し地域の方々にも声をかけ交流の場を持っている。	団地の自治会に加入していないが交流は持っている。近隣のイマジン(障害者地域共生拠点事業所)の夏祭りに入居者が参加して楽しませて貰い、古紙回収に協力している。指月の郷開設初の秋祭りには、イマジンからや家族、地域住民など200人ほどの参加者があり大変賑わっている。入居者は児童館のイベントやボランティアのフリーマーケットなどにも参加している。地域交流スペースは自治会の集会などに開放している。2か月ごとにセレマのフラワーアレンジメント教室(生花)やフェルトの小物(加湿)作成などのボランティアを受け入れて入居者や家族に好評である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	カフェを開催し事業所に対する理解が深まる取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し取組み、ヒヤリハットや事故等の報告、意見交換を行いサービス向上に繋げている。	会議は、家族(7~8名)、自治会員、民生児童委員、地域包括支援センター、施設長や職員などが参加しEast館と共同で開催している。入居者状況や運営状況、事故・ヒヤリ・苦情の月別推移、研修(内部、外部)などを報告し、行事については、入居者の表情や動きが見えるようスライドで報告している。家族から「多様な報告は有り難いが、内容のコンパクト化や時間配分など予定時間内の進行を…」の意見に対して改善に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加している。	行政の担当課には、運営推進会議の議事録を持参し対話している。事業所開設時には、多くの相談をして指導やアドバイスを頂いて協力関係が築けている。2か月ごとの地域密着型事業所連絡会やサービス別施設部会にも参加して交流、情報収集をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しユニットに設置している。毎月、全体会議にて研修を行っている。ユニット会議にて事例検討を行っている。	運営規程や重要事項説明書に身体拘束の禁止を明確に表明している。職員は、身体拘束および高齢者虐待防止について身体拘束委員会が中心となって毎月の全体会議において研修を受けている。ユニット会議では、事例検討から具体的に正しく理解して身体拘束をしないケアを実践している。電動ドアの玄関は日中電源をONにしている。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成しユニットに設置している。委員会を設置し、毎月話し合いを行っている。ユニット会議にて事例検討や話し合う場を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時に研修を行っている。今後も年に1回研修を行っていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間をとり、説明を行い同意を得ている。重要事項説明書に内容の変更があれば、事前に説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書へ苦情窓口の明記、意見箱の設置を行っている。	家族の面会時には、入居者の状況を伝え意向を聞く姿勢で臨んでいる。運営推進会議に参加の家族から『外出(お城まつり)支援で入居者が「行きたい」と言われた方は連れて行ってもらっているが、思っても言えない方もいるかもしれない。何か心のケアがあれば良いと思った。全員を連れ出すことが難しいこともよく分かったが、何を基準にしているのか?』を尋ねている。事業所は「前回出かけたので、次はこの方や希望のある方、体調などに合わせてお連れしている」と答えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やリーダー会議の場で提案できる機会を設けている。職員と面談する機会を設け意見を聞いている。	ユニット会議や全体会議、リーダー会議などに職員の意見を聞いている。全職員は、年度ごとにOJTシステム目標シート(執務考課)を作成し、4半期ごとの評価時にも意見を提案する機会が設けられている。職員の意見から入居者の状況変化に応じて肘付きシャワーチェアを要求し購入して貰い体幹の安定した入浴が可能になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場作りとして人事考課制度を導入している。研修費の負担や送迎等向上心を持って働けるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し月に1回研修の機会を設けている。外部研修でも興味がある研修に参加できるよう情報提供している。OJTシートを作成し目標に向かい個人のスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加し同業者と交流する機会を作っている。特別養護老人ホームや小規模多機能と合同レクリエーションを定期的に関催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望や不安な事を聴く時間を作り、それを記録に残し職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に近況の様子等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の暮らしぶりや大切にしてくられたことを把握し、今現在必要な援助は何かをご本人やご家族を巻き込みながらチームで考えていくよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の思いやできる事、今までの習慣を尊重し掃除やお皿洗い等、関わって頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は会話が楽しめるよう良い雰囲気を作りご本人の以前の暮らしや思い要望をお聞きしている。介護についての相談や助言を行い、時にご本人の思いをご本人に代わり伝える場合もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等で自宅付近まで出かけたたりしている。遠くに行けない所は職員と会話し思い出を語っていただいている。	家族は、毎日面会に来られる方もあり様々だが、遠方でも月1~2回来て会話を交わす時間を持っている。面会のない方はない。ドライブなどでわざわざ自宅近くに行くこともある。面会に来た他の家族から本を借りて友達になっている方もある。趣味の編み物をしている方もある。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	特徴や性格等を把握し座席を考え楽しく会話できる場を提供し関係作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了はないがユニット間の移動があった。挨拶など行き関係性は大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、情報の共有に努めている。困難な場合は話し合いなどで検討している。	入居前に本人宅を訪問し、本人や家族からその人の性格、生活歴や心身の状況、今後の生活への意向などを聞き取り、担当の居宅介護支援専門員からの情報も踏まえてアセスメント用紙に記録している。風月ユニットは、「その人を知る」を目標の一つに掲げて、日々の会話から得た入居者の思いや意向を申し送りノートに記録して職員が共有し支援につなぐよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し個々の把握に努めている。ご本人やご家族からも聞き取りを行う等、これまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を記録に残し、申し送りによる周知を行う事で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を行い意見を出し合っている。ご本人やご家族の意向や要望を取り入れケアプランを作成している。	入居者の初回アセスメント情報から暫定的な施設サービス計画を作成している。この計画に基づいてサービスを提供しながら、入居後は1か月間様子を把握する期間とし、この間の情報からモニタリングして施設サービス計画書を作成している。サービス担当者会議の初回のみ看護師が参加し以後は意見照会を貰っている。施設サービス計画書には本人や家族の意向を反映させ、サービス担当者会議に参加している家族に説明し了解の上で署名捺印を貰っている。毎月行うモニタリング情報から3か月ごとに計画の確認、見直しをしている。入居者の状況変化に応じて随時モニタリングして施設サービス計画を変更し現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランの実施記録と共に日々の様子や変化等必ずケース記録に記入し申し送りノート等で共有している。またそれらを基にモニタリングやアセスメントを行っている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に考慮し外出支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、イマジンのお祭りに参加したり文化祭に作品を出展したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を行っている。他科受診の希望があれば受診を行い、ご家族へ結果の報告をしている。訪問歯科の希望があれば受けて頂いている。	入居者は、月2回協力医療機関(京都武田病院)の同じ医師による訪問診療を受けている。介護部医務課を設置し看護師を配置している。医療機関とは電子カルテで連携し迅速な伝達と情報の共有を行っている。必要に応じて協力歯科クリニックの訪問診療や歯科衛生士による定期的な口腔ケアの指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制は整えている。訪問診療の際も看護職員とユニットリーダーが立ち会い入居者の状況把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である恵心会京都武田病院と医仁会武田病院と協定書を締結している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針の説明を行い意思確認を行っている。	「看取り介護・重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護についての同意書」希望する救命救急処置や看取り医療機関や医療行為に係る「事前意向確認書」などを作成している。入居時に指針と事業所でできる範囲などを丁寧に説明し、家族の理解を得た上で意思確認を行い同意書に署名捺印を貰っている。家族の意向が決まっておれば事前意向確認書に署名捺印を貰っている。入居者の状況の変化に応じて随時家族と話し合っている。看取りケアの研修は、看取り専門研修や看取り公開講座などの外部研修に参加し、内部で伝達研修を行い共に学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし普通救急救命講習を受講している。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。	消防署指導の下、火災時の避難訓練と消火訓練を年2回(昼間)East館と共同で実施している。夜間は自主訓練で行っている。AEDを設置し救命講習を受けている。平成30年に連続発生した災害時の対応から、団地の自主防災会との連携が向上している。耐震建築であり、非常時の福祉避難所を見据えた体制、備品や備蓄を考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設時に研修を行っている。性格や認知症の症状の違いを理解し、認知症があってもその人を尊重し、今できることを見つけていけるよう努めている。	開設時、全職員に対して「権利擁護」について研修を実施して入居者の権利、尊厳について意識を高めて支援している。入居者は名前で呼び、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮し、その人の思いを大切に支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた起床時間や就寝時間をできる限り対応している。入浴も曜日を設定しているが、気分によっては入浴日を変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や女性の方には化粧水等の使用、男性の方には髭剃り等行えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態に合わせた食事形態を提供している。一緒に準備や後片付けを行っている。	食事は、管理栄養士が常駐する直営の厨房で調理して提供している。入居者は職員と一緒に食事の準備や盛り付け、食器洗いなどをして一人ひとりの機能を生かしている。嗜好調査を実施し毎日の食事やおやつレク、食レクなどに反映させている。外食は回転すしにも出かけている。厨房は、郷土食を提供しその県を日本地図に表示して、全国制覇に挑戦し入居者の口や目を楽ませる工夫がみられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し食事摂取量、水分摂取量を記録に残している。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と食後は口腔ケアを行い義歯洗浄を行っている。習慣により毎食後に行わない方もいるが必ず声掛けをするように心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に合った排泄用具とトイレの声掛けを行っている。できるだけトイレで排泄し気持ちよく過ごして頂けるよう支援している。	入居者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、トイレへの排泄誘導や声かけをして支援している。できるだけトレーニングパンツにパットを用いて気持ち良く過ごして貰えるよう支援している。改善例はないが、可能な限り長く現状維持を支援したいと考えている。トイレにはアームレストや前にも体幹の支えを設置し安定した体幹保持での排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用い看護師と相談しながら個々に応じた支援を行っている。朝食事に冷たい牛乳を飲んで頂いている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望を聞き午前、午後での対応をしている。また、入浴を希望される方にも時間調整をし個々に沿った支援をしている。	週2回の入浴を基本とし入居者の希望を聞きながらあらかじめ予定しているが、更に日や時間の変更もありそれぞれの希望に沿ってゆっくり入って貰うよう支援している。ボディシャンプーやヘアシャンプー、リンスなど拘りのある方もいる。現在入浴を拒否される方はない。季節湯への取り組みは、今後考えたい思いがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に違う為、習慣に合わせて休んで頂いている。ゆっくりテレビを見て過ごされる方もおられ室温等にも注意している。日中も自由に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、口腔内に飲み残しがないように確認を行っている。薬情に変更がないか常に目を通し、看護師とも連携し状況の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等から聞き取りしプランに沿いながら、得意なことをして頂けるよう支援している。散歩や外に出かける機会を大切にしている。		



京都府 グループホーム 京都指月の郷 West館(風月ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出できるよう支援している。季節を感じてもらえるような外出行事も企画している。	屋上庭園を設置し季節の花などを見ながら季節の変化を感じて安全な散歩や日光浴は定番である。近くの公園や団地内の散歩、商店街やスーパーなど入居者の要望に沿って買い物外出も支援している。児童館のイベントやボランティアのフリーマーケットなどにも出かけている。行事計画として紅葉や花見などのドライブ外出もある。家族と一緒に外出される方もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使うときは、職員が支払いを行うのではなく、ご自身でできる方には支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイを持たれている方は電話をしたりメールを送ったりされている。使い方が分からなくなる時には一緒に行っている。持たれていない方についても希望時には意向に沿っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室やトイレなど分かりやすい表示をしている。外の空気も吸って頂けるよう換気をし、気持ちよく過ごして頂けるよう工夫している。	リビングは、明るくゆとりある広さで角が丸い大きな目のテーブルを設置している。リビングの一角の三角状のコーナーは、2面がガラスで光彩や見晴らしがよく、テーブルと椅子2脚を置いている。入居者が他の方々と少し離れて過ごしたり、家族との面会などの場所にも用いている。オープンキッチンから副菜などの匂いが広がり生活感がある。加湿と空気清浄器を設置しているが、清掃の時は少し窓を開けて外気も取り入れ気持ち良く過ごして貰えるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方と話しやすいよう、テーブルの配置を考え談話を楽しんで頂けるよう配慮している。窓側にゆったりと過ごせるようソファを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や写真を持ってこられ、思い出の品を自由に飾る等、ご家族と相談しながら居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室に名前を用いず、入居者それぞれの写真入りの掲示物を手作りして貼っている。ベッド、エアコン、カーテンは備え付けてある。入居者は、整理タンスや寝具を持ち込み、タンスの上には、家族写真や縫いぐるみなど好みの品々を飾り心が休まる自分の居場所を工夫している。仏壇を持ち込み毎日拝むなど供養されている方もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力量に応じて安全に自立した生活が送れるよう家具の配置や車いす、歩行器の置き場所にも配慮し安全な環境作り心掛けています。		